

用語の解説

アクセスログ	<p>ホームページやブログを閲覧した記録。サーバーや特定の場所に保管され、管理者は見る事ができる。</p> <p>見られる情報は、アクセスログを取るソフトの違いによるが、「閲覧時刻」「閲覧回数」「閲覧元（どこから来たのか）」「検索キーワード」「滞在時間」などである。</p> <p>これを基データとして、ホームページの評価をしたり、更新の方針を決める。</p>
システム	<p>仕組みのこと。</p>
編集ソフト	<p>ホームページビルダーや、ドリームウィーバーなど。</p>
CMS	<p>Contents Management System</p> <p>コンテンツ（ホームページの内容）を管理する仕組み。従来、ホームページは一ページ一ページ作成していたものを、管理画面から容易に編集・管理できるようにしたもの。</p> <p>様々なツールが出ており、有料・無料など多種多様である。</p> <p>今回の講習では、ビジネスブログとして、ブログのシステムをCMSに転用する例を挙げた。</p>
検索エンジン	<p>グーグル・ヤフーなどの検索サービスのことを言う。</p> <p>一般の人がホームページを見るときには、8割が検索エンジンで言葉を捜してそのホームページへたどり着くといわれている。このため、企業がホームページを公開したときに、検索キーワードで上位に来ることが、来訪者を増やすために重要である。</p>
トラックバック	<p>ブログの記事と記事を結びつけるリンク。</p> <p>リンクがお互いにあることで、検索エンジン上で上位に来る確立が高くなる。</p>
スパム	<p>迷惑メールなどのことをスパムメールというが、ブログの場合だと、スパムコメントといわれる。</p> <p>スパムコメントは、記事に対して一方的に無関係の言葉とリンク先を載せる。</p> <p>この対策として、大手ブログ業者だと人間しか認識できないような絵を文字として入力させたり、NGワードを決めてコメントを載せないようにしたり、という対策が取られている。</p>

<p>炎上</p>	<p>ブログのコメント欄が荒れること。 荒れているとそれを聞きつけ、さらに荒らしにくる人たちが居る。 荒れたら、すぐに対応すること。対応の際には、簡単に削除するのではなく、建設的な話し合いをブログ上ですると良い。</p>
<p>SEO</p>	<p>検索エンジンで少しでも上位に来るようにページを工夫すること。 キーワードを文章にちりばめたり、構造的に正しいホームページ言語（HTML）を使ったり、より多くのサイトからリンクされるようにしたりする。 ただし、余りにも無意味なリンクや無意味な文字が羅列されていると、スパムと認識され、検索結果から外されたり、下位表示されるペナルティを受ける。</p>
<p>サーバー</p>	<p>インターネット上にあり、ホームページやブログのシステムが載っている機械のこと。 一般には、レンタルすることが多い。 ユーザーはFTPなどでファイルをサーバーに記録する。 閲覧者は、ホームページアドレスを入力すると、ブラウザ上にサーバーの情報が読み込まれ、ホームページを見ることができる。</p>
<p>ブログシステム</p>	<p>サーバー上にインストールするソフトウェアのことをここでは指している。 一般に、ムーバブルタイプやワードプレスなどがあり、いずれもソフトウェアをサーバーに載せ、インストールする必要がある。 また、データベースを利用するため、サーバーにデータベースがあることが必須である。</p>
<p>ブログパーツ</p>	<p>ブログに貼り付けることで、機能を強化できる部品。 ブログのホームページ構成は一定の規則に従っているため、共通のパーツ（部品）を簡単に載せ、機能を追加することができる。 主なものに、グーグルカレンダーや、付箋、時計や写真アルバムなどがある。</p>

<p>RSS</p>	<p>Rich Site Summaryの略。ブログやホームページの更新情報を要約して、流す仕組み。 読む側は、RSSリーダーなるソフトを使って、要約情報を閲覧する。 閲覧者がブログをRSSリーダーに登録すると、「購読」していると表現するブログサイトもある。 mixiの「マイミク」もこの「購読」に値するものである。</p>
<p>SaaS</p>	<p>Software as a Serviceの略。ネットワーク経由でアプリケーションを使うもの。 特にここでは、インターネット経由であるものを指した。 例としては、グーグルドキュメントや、スプレッドシートのデスクトップアプリケーションや、顧客管理システムなどの基幹業務システムなどがある。 今後、インターネットに低コストで繋がり、より速くなることで益々利用が進むと見られている。</p>
<p>SNS</p>	<p>Social Network Systemの略。日本ではmixiが有名。ミクシィを例に取ると、入会するには、既にミクシィをやっている友達からの誘いが必要である。このため、ミクシィユーザーは必ずミクシィ上に誘った人が居る＝友達が居る。これら、参加者同士の人と人のつながりに重点を置いたシステムで、ネット上で共通の話題や悩みを持った人たちと簡単に情報を共有できる。 SNSの仕組みを企業の知識共有や情報共有に役立てたりするビジネスSNSも盛んに行われている。</p>